

平成29年2月24日

生駒市議会議長 中谷尚敬様

市民文教委員会委員長 福中眞美

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の調査結果について、生駒市議会会議規則第107条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 派遣期間 平成29年2月10日(金)
- 2 派遣場所 壱分小学校（放課後子ども教室）
- 3 事 件 安心、安全な放課後の児童の生活及び活動の保障について
- 4 派遣委員 福中眞美、吉波伸治、塩見牧子、吉村善明、改正大祐
- 5 概 要 別紙のとおり

市民文教委員会視察報告書

視察先	壺分小学校 放課後子ども教室	
施策等の名称	安心、安全な放課後の児童の生活及び活動の保障について（テーマを定めた調査）	
視察の目的	<p>放課後の子どもたちが安全に安心して活動できる居場所を作ることを目的として実施されている「放課後子ども教室」について、現状を把握する。</p>	
施策等の概要	<p>本市では、放課後の子どもたちが地域社会の中で安全に安心して活動できる居場所を設けることを目的として、地域の方の賛同を得て「放課後子ども教室」が実施されている。</p> <p>なお、実施に当たり、市内で子どもと保護者を対象として子育て支援や子どもの居場所づくり活動を実施している団体「子ども舎“宙”」に、事業スタッフとしての参加を依頼している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【事業経緯】</p> <p>平成19年9月 文部科学省の放課後対策事業として俵口小学校で開始</p> <p>平成22年9月 真弓小学校で開始</p> <p>平成24年9月 東小学校で開始</p> <p>平成28年9月 壺分小学校で開始</p> <p>【取組内容】</p> <p>学校の余裕教室、多目的室を利用し、地域のスタッフが見守る中、子どもは、宿題や読書をしたり、準備されたおもちゃ・ゲームなどで遊ぶなどして自由に過ごしている。</p> <p>○利用方法 事前登録制</p> <p style="text-align: right;">参加は自由だが、保護者が押印して参加を確認した出</p>	

	<p>席カードを提出する。</p> <p>○対象児童 全児童（※学童保育を利用している児童も利用可能）</p> <p>○定 員 当初は70名ほどの登録を受けていたが、教室の広さに制約があり、また、スタッフが見守りできる人数とするため、当日の利用者が最大で各校20名から30名程度となるよう定員を設定している。</p> <p>○費 用 保険料として年間800円</p> <p>○実施時間 週1回：午後3時～午後4時30分 午後4時30分に保護者に迎えに来てもらうようにしている。</p>
委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者の就労の有無や就労形態に合わせた選択、対応ができるよう、量（実施日数の拡大）と質の拡充を図るべきである。 ●「安心・安全な放課後」の提供のためには、全校で実施、平日は毎日開催できるようにすべき。 ●「子ども舎“宙”」のスタッフのみで実施しているので、全校実施、毎日開催ができていない。新たな運営主体の開拓とスタッフ、ボランティアの確保、そのための検討が必要である。 ●利用者が少ないので遊び場や勉強などの活動の幅が限られ、ボランティアも意欲があっても、それぞれの能力を活かせる場所がない。 ●多目的室を間借りしているため、学校行事等で使われると実施できなくなる。教室の拠点となる専用スペースを確保すべきである。また、外で遊びたい等の要望もあり、図書室や運動場、体育館など利用できるスペースと活動の種類を広げ、「魅力」を高める必要がある。 ●全ての児童、生徒の安全、安心のためには、定員の撤廃を基本として実施できるよう制度を構築すべきである。また、定員によって利用人数が少ないために保護者の「お迎え」を要し、逆に保護者の「お迎え」が利用控えを招いている可能性もある。保護者の「お迎え」がなくとも安全に下校できる体制を整えるべきである。 ●視察に行った他市（小平市・我孫子市）よりも費用（保険料）が高い。利用を促し、料金の引き下げを目指すべきである。 ●放課後の居場所のない子どもに、それを提供する点で意義がある。放課後の居場所の選択肢を増やすことでも意義があるが、その意義を考えると週1というのは不十分ではないか。 ●日が早く暮れる冬場は16:30までというのは仕方ないとして、日が暮れるのが遅い季節は17:00までにしてはどうか。

- 各種問題を抱えた子どもも受け入れる体制を維持して欲しい。
- 部屋の中での活動だけでなく、野外での活動も取り入れたい。
- 望まれることも多々あれども、現状は維持するのがやっとな印象を受けた。その要因は、「スタッフの確保」の困難さである。
- 持続可能な放課後子ども教室、更には進展する放課後子ども教室の実現は、ひとえにそれらを実現できる、十分な「スタッフ確保」が出来るか否かにかかっていると思われる。
- 一つの団体が事業を受託し、市内では4校で週1回、放課後子ども教室を開催しているが、圧倒的なマンパワー不足が見受けられる。
- 人材不足は明らかであり、拡充どころか現在働いている方が辞められると、継続することもままならない状況に感じた。
- 多目的室を使える学校はいいが、教室が余っていない学校が多いと聞く。校庭や体育館が使えれば違った方向から拡充できるのではないか。
- 下校時の保護者のお迎えが必要というのも、参加するハードルが高いのではないかと思う。現在は定員が30人であるが、参加人数が多ければ学童と同様に、集団下校というのも考えられるのではないか。
- 指導員の方とのヒアリングで、放課後子ども教室と学童保育の良いところとして、学校就学時間帯は世代間の交流はないが、放課後子ども教室と学童保育では世代間交流によって高学年の子どもたちが、低学年の子どもたちを見守るという効果があることがわかった。非常に大切なことで、子どもたちの今後の人生においても人間形成上重要なことだと感じた。
- 残念ながら生駒市の場合、学童保育が充実しているため、放課後子ども教室の必要性があまり感じられなかった。学童と一緒にしてもいいとも思ってしまう。